

2019年3月8日 おはなし喫茶

大熊啓さんと狛江ぞうれっしゃ合唱団有志

大熊啓さんのトーク

原子力発電所のことについてお話をします。

お隣の台湾では 2025 年に原発をゼロにするというのが法律で決まりました。電気事業法が改定されて、いまは第3原発があり、第4原発を建設中だったのですが、その建設が住民投票で覆されて、建設が中止になりました。いま動いている第3原発も 2025 年で 40 年を迎える。40 年は原発の寿命と言われていて、それならいま動いている原発は 2025 年で止めて、それまでに自然エネルギーに変えましょうという法律を作ったんですね。これはとても画期的なことで、日本を含めてアジアの中では、最初のそしていまはまだ唯一の、脱原発法と呼べる法律です。



ではなぜ、そういう法律ができたのかということですが、一つのきっかけは東日本大震災と福島第一原発事故です。台湾では大きなショックがありました。たくさんの義援金が寄せられて、マスコミでも台湾と日本は友情が熱い等と報道されたと思います。同時に台湾は大きなショックを受けまして、技術大国の日本でさえあんな事故が起きてしまうのだ、日本で起こる事故は当然台湾でも起こりうる、台湾国内の原発は首都から 30km 以内にある、もし何か起きたら台湾という国が無くなってしまふ、そんな訳にはいかないから原発に頼らない世の中にしようとなりました。

もう一つのきっかけはお母さんたちなんですね。お母さんたちが原発監視ママ連合というのを立ち上げて、原発反対の運動を始めた。2013 年に大きなデモが行われますが、台湾では 10 万人規模(人口 2,300 万人)というのは 1 回も行なわれたことが無かった、その 10 万人のデモが初めて起きたのが、原子力発電所をなくしてくれというデモだったんです。その時に創られた歌というのがあります。台湾の主要なミュージシャンたちがお母さんたちに

子どもの大空

胡如虹・陣建寧 作詞
陣建寧 作曲
小林康弘 編曲
康泉啓 日本語訳詩



風が 強く 吹き荒れて
木々も 草も 泣いている
目をそらし 口閉ざして
かえりみることもせず

虹かかる 子どもの空を
咲く花を そよぐ樹を
誰が壊すの？

風が 強く 吹き荒れて
町が 明日が 遠ざかる
いま声を あげる勇気が
自由への道を照らす

虹かかる 子どもの空を
願うのは ただ一つ
永遠につなぐ 生命 (いのち)

もう一つのきっかけはお母さんたちなんですね。お母さんたちが原発監視ママ連合というのを立ち上げて、原発反対の運動を始めた。2013 年に大きなデモが行われますが、台湾では 10 万人規模(人口 2,300 万人)というのは 1 回も行なわれたことが無かった、その 10 万人のデモが初めて起きたのが、原子力発電所をなくしてくれというデモだったんです。その時に創られた歌というのがあります。台湾の主要なミュージシャンたちがお母さんたちに

賛同して生まれた歌が「子どもの大空」です。お母さんたちの思いと歌が、原発をなくすということまで実現させてしまった。

ひるがえって、日本は40年を60年まで使っていいんじゃないのと決まりを変えてしまったり、原発を海外に輸出しよう（失敗しましたが）としていました。台湾は原発を止めるよ、といち早く動いたのですね。

まず、「子どもの大空」を歌いたいと思います。

♪ かぜが つよく … いのち〜。♪

もう1曲、子どもの歌、「いとしごよ」を歌いたいと思います。そうれっしゃ合唱団の方は前に出て来て下さい。この歌が素敵だなと思いましたが、皆さま、明日の第1会議室で公開練習をしていますのでのぞきにきて下さい。

♪ いとし子よ

小森香子：作詞 原田義雄：作曲



1. いとし子は 今ひらく花のように
私を信じて ひとみをあげる
いとし子は いつかその足で立ち
私をふりかえり そして出てゆく
*この両手の重み それは地球の重さ
この胸のぬくもり 抱きしめて
この両手の重み それは地球の重さ
この胸のぬくもり それは愛
2. 出てゆく世界が どんどころか
心痛めるばかりの 母にはなるまい
出てゆく世界が 戦火で血ぬられ
泣いて見送る 母には決してなるまい
*繰り返し
3. いとし子よ おまえの未来を作るのは
今わたしたちが 手を取り合うこと
いとし子よ おまえと歩むために
今わたしたちは 声をあげる
*繰り返し

